

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                             |     |        |     |
|----------------|-----------------------------|-----|--------|-----|
| ○事業所名          | HIYOKO SPORTS南中山教室          |     |        |     |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 5月 14日 ～ 2025年 5月 31日 |     |        |     |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 30人 | (回答者数) | 12人 |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 5月 14日 ～ 2025年 5月 31日 |     |        |     |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)                      | 5人  | (回答者数) | 5人  |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2025年 6月 10日                |     |        |     |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※) だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                                                                                                | 工夫していることや意識的に行っている取組等                                                                    | さらに充実を図るための取組等                                                                                    |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ・生活空間では事務所と支援室がはっきり分かれていることから、子ども一人一人が十分なスペースを確保出来ている事。必要に応じて子どもを別室で対応することが出来るスペースがあることは子どもの安心感にも繋がり落ち着いた空間で過ごせる事で保護者様からも安心できるとの声を頂くことがある。 | ・子ども一人一人が十分なスペースを確保できることから、職員が付き集団での遊びやカードゲームなどで場所を広く使うことができ、トラブルが起きずに楽しく過ごせる環境作りを行っている。 | ・生活空間を大いに活用する為に、長期連休などはレクリエーションやイベントを今後積極的に計画していきたい。                                              |
| 2 | ・療育プログラムがそれぞれの子どものに合った支援計画で進めることができ、特に学習の時間では苦手とする分野を集中的に取り入れることで子どもの不得意を無くし出来なかった事が出来たを目指す事が出来る。                                          | ・子どもに合った療育支援を職員が理解していることから、教室の広さを十分に活用し運動での個別療育並びに学習での苦手分野を職員と個別に対応するように意識的に行っている。       | ・今後は運動療法では療育道具をサーキット形式で取り入れることで子どもの楽しみを増やし、学習では従来の個別支援の他に同学年での集団の学習を取り入れることで子ども同士での情報共有を促すことが出来る。 |
| 3 | ・通所するのが楽しみな子ども、安心感を持って通所することもある。職員一丸となって活気溢れる職場を作ることが出来る。                                                                                  | ・職員一同、常に笑顔を忘れずに挨拶も元気に行っている。活気ある職場作りは職員の第一声から始まることを意識しながら行動に移している。                        | ・定期的にイベントの計画や取り入れてなかった公園での遊ぶ時間を取り入れ通所して楽しいと思えるような教室作りを目標とする。                                      |

|   | 事業所の弱み(※) だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                                             | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等                                                                 |
|---|---------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | ・職員間での情報共有が不足していること部分がある。                   | ・保護者から伝えられる情報を報告・共有する時間がしっかりと確保されていない。                                        | ・帰りの送迎が終了次第、保護者様との対応を必ず管理者に報告する。常にメモを取ることを意識的に行うようにする。                               |
| 2 | ・職員と保護者間との連携及び情報伝達が不足している部分がある              | ・送迎後の情報共有の時間が確保されていないことが要因である。翌日の朝に供する時間をもつか、ICT活用により、情報を共有するツールを考えることも必要である。 | 今後は「報」「連」「相」の重要性を理解し、業務内で不備が発生し保護者様からご連絡頂いた場合は必ず対策を立て同じような問題が起きないように職員及び保護者間の連携を強める。 |
| 3 | ・定期的な面談、父母の会などの交流のイベントが行われていない。             | ・個別支援計画作成時は面談を行うが、職員の不足や人員配置の問題から定期的な面談を計画することが出来なかった。                        | ・今後は適切な人員配置を設置し、保護者様からのご要望、面談など積極的に行い、人員の確保が見込めた時期に交流会や面談を定期的に行う。                    |